

国語 第3学年 言葉について考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月～2月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

様子、行動、気持ちを表す言葉を比べ、自分が伝えたい場面に合う言葉を選ぶ。強い言葉や難しい言葉ほどよいと考えず、読み手が思い浮かべる様子の違いを確かめる。単元の終わりに残すのは、言葉の選び直しノート。元の表現、選んだ表現、伝わる様子の違い、選んだ理由を残す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。

単元の目標

様子や行動、気持ちを表す語句を増やし、言葉が考えや思いを表す働きに気付ける。伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちを表す語句を増やし、言葉が考えや思いを表す働きに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア・〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直している。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全5時間（知・技②、書③）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○日常で使う様子や行動の言葉を集め、似た言葉を比べる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○教師が作った短文の言葉を替え、思い浮かぶ場面の違いを話す。	知①（語句や内容の整理）
	3	○自分の経験を短く書き、伝えたい様子に合う語句を選んで書き直す。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○元の文と直した文を読み合い、伝わり方を基に言葉を選び直す。	思①（発言・学習記録）
第3次	5	○表現の違いと選んだ理由をまとめ、日記などで使いたい言葉を記録する。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直せる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」 【めあて】様子、行動、気持ちを表す言葉を比べ、自分が伝えたい場面に合う言葉を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・歩いたを別の言葉にすると、歩き方まで思い浮かぶ。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」 自分の文章から様子や気持ちを表す語句を選び、別の語句に替えた文と比べる。伝えたい場面に合う語句で文章を書き直し、修正前後を友達と読み合って、伝わり方がどう変わったか確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・歩いたを別の言葉にすると、歩き方まで思い浮かぶ。 ・気持ちの強さが変わって伝わる。 ・友達の言葉はよいけれど、自分の場面には合わない。	元の文と語句を替えた文を並べて読み、どの言葉からどんな様子が伝わったかを読み手が話す。言葉の意味が曖昧な場合は辞書で使い方を確かめ、児童の体験に合う例文を作る。 想定する難しさ：語句を増やすために意味の重なる言葉を重ねる。自分では見えない動作や気持ちを付け足す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直している。（修正前後の文章・語句を選んだ理由）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の言葉はよいけれど、自分の場面には合わない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを

並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、語句を増やすために意味の重なる言葉を重ねる。自分では見ていない動作や気持ちを付け足す。この場合は、元の文と語句を替えた文を並べて読み、どの言葉からどんな様子が伝わったかを読み手が話す。言葉の意味が曖昧な場合は辞書で使い方を確かめ、児童の体験に合う例文を作る。おおむね満足できる状況は、伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

言葉の選び直しノート。元の表現、選んだ表現、伝わる様子の違い、選んだ理由を残す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年下巻」93行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

